2024年01月02日（火）【外為Ｌａｂ】松田哲
タイトル：【あけましておめでとうございます】

あけましておめでとうございます。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

++

昨日（2024年1月1日）の元旦は、全くの予想外に、能登半島での地震と津波が発生しました。

もちろん、そういった災害が、相場（外国為替市場）に、直接影響を及ぼすとは思いませんが、漠然と今年（2024年）を象徴しているようにも思えてなりません。

一部の地震学者の説ですが、以下のように述べています。

「南海トラフ巨大地震が発生する数十年前から、能登半島を含め九州にかけての西日本で地震が多くなるといわれており、断層の活動期の一環ではないか」

つまり、今後、別の地域で、大きな地震が発生する恐れがある、ということ。

現時点の科学では、地震や津波の発生を事前に予知することはできないのですから、鵜呑みにする訳にはいかないとしても、警鐘に値する、と考えます。

何事にしても、「備えあれば憂いなし」の格言通りだと考えます。

++

今年の相場（外国為替市場）は、大きな転換点を迎えている、と考えます。

最大の関心事は、日米の金融政策の変化です。

米国は昨年（2023年）までの利上げのスタンスを変更して、利下げに向かう、と考えます。

ただし、当分の期間は、それまでに利上げした効果を確認するために、政策金利を据え置くことになるのだろう、と考えます。

一方、日本の金融政策は、利上げに向かうことが明白です。

昨年末（2023 年末）の日銀総裁の発言から、その方向性（利上げに向かうスタンス）は、間違いのないところ、と考えます。

ただし、日本の場合も、そのタイミングは、この年初（2024 年年初）の時点では、不明確と言えます。

今年（2024 年）の早々に、利上げに踏み切る可能性も否定できないのですが、日銀が気にしている賃金の上昇を確認するために、春闘が終わる頃まで、現在の金融政策を動かさない可能性も十分にあり得ます。

だから、一筋縄ではいかないことになるのですが、日米の金融政策の方向性は明らかと考えます。

++

それが発生するタイミングを事前に予知できないという点では、地震や津波と同様だ、と考えます。

そして、「備えあれば憂いなし」の格言に従うべきところも、同様だ、と考えます。

++
++

（2024 年 01 月 02 日東京時間 14：45 記述）